AFRICA JAPAN FORUM

アフリカ NOW

No.117

在日アフリカンやアフリカからのゲストと連携して、TICAD 7関連の市民ネットワークのイベントを開催
2019年8月 「ここから始めるアフリカ in 横浜」 撮影：茂住衛

CONTENTS 目次

特集：在日アフリカンと学び、理解しあう
Special Topic: Learning together with Africans in Japan

「かりほうめん」の問題と不安 Troubles and worries as a KARIHOMEN カマラ アナ 3

仮放免での歯の治療 A KARIHOMEN's path to dental treatment 津山 直子 3

先生は難民～リンガラ語、始めました 金井 真紀 4-5
My teacher is a refugee. Enjoying Lingala !

8年の日本留学生活と将来の目標 ンブップ アイサトゥ（アイシャ） 6-7
8 years of studying in Japan and my goals for the future

AKC リレーエッセイ第10回 私の夢／ My dream ンティバ ケツィア 8-9

南アフリカ：ローズの呪縛 福島 康真10-11
South Africa: Legacy of Cecil John Rhodes

「国際保健と COVID-19」ブログ記事から

ACT アクセラレーターがデルタ株拡大に対し緊急声明 稲場 雅紀 12
ACT-A requested $7.7 billion for emergency response to Delta variant

COVAX、中国ワクチン1億本を9月末までに途上国に供給 稲場 雅紀 13
COVAX will supply 100 million doses of Chinese vaccines to developing countries by the end of September

書評：下地 ローレンス 吉孝 著『「ハーフ」ってなんだろう？』 小林 俊一郎 14

報告：AJF2021年度会員総会・会員交流会 廣内 かおり 15

AJF 事務局から読者の皆さんへ～ひとつの結び目として／活動日誌 裏表紙

Learning together with Africans in Japan

在日アフリカンと学び、理解しあう

オンラインで開催された「セネガル祭り 2021」のポスター
2021年5月

入管法改悪反対の国会前抗議行動。プラカード（金井真紀さん作）を持つジャックさん
関連記事4-5ページ　2021年5月　東京

「在住アフリカ人と共に生きる勉強会・交流会」
第3回「難民として日本へ」　2020年1月　東京

AJF は在日アフリカンやその家族と協働して、アフリカ理解や多文化共生を促進する活動、子どもたちが交流するアフリカンキッズクラブなど、多様な取り組みを行ってきた。また、ユース世代になった子どもたちによるアフリカンユースミートアップなど、新たな活動も生まれた。その中で、「日本に住むアフリカンのことをもっと知りたい」という声も AJF に寄せられている。

『アフリカ NOW』の今号では、「在日アフリカンと学び、理解しあう」というテーマの特集を企画した。これからも、在日アフリカンとの出会いや学びを伝え合い、つながりが広がるよう活動していきたい。

2021年4 月に「出入国管理及び難民認定法（入管法）改正案」が国会で審議入りした。難民認定率が0.4%と非常に低いという問題がある中で、難民認定の申請回数の上限を設け、3回目以降は強制送還の対象になるなど、「改悪」案であった。これに反対する市民や野党の声が高まり、5月18日に廃案になった。この法案に反対する国会前での抗議行動に参加した金井真紀さんから、この行動で出会ったコンゴ民主共和国出身のジャックさんとの話を寄稿していただいた。

一方、コロナ禍が続く中で、オンラインでの学びや交流の機会が増えている。難民認定申請中のアナさんは、NGO の支援を受け、オンラインで日本語学校の授業を受けている。また、セネガルから日本に留学して8年になるアイシャさんは、博士課程で学び、「セネガル祭り」などのオンラインイベントを仲間と開催している。お二人には、自分の経験を日本語で執筆してもらった。

今号の特集の関連記事として「アフリカンキッズクラブ・リレーエッセイ第10回」では、コンゴ民主共和国から来日して6年になる中学1年生のケツィアさんが、将来の夢について書いてくれた。

「かりほうめん」の問題と不安
Troubles and worries as a KARIHOMEN

カマラ アナ／Kamara Anna

＊ 本稿は、筆者が日本語で書いたものです。

私はカマラ アナです。リベリア人です。東京でアパートを探すのに苦労していることについて書きたいです。

今年の初めにアパートを探し始めました。私の長女は18さいで、自分の部屋が必要なので、２部屋のアパートを見つけて、ひっこしたいと思いました。でも、貸してくれる大家さんは、見つかりませんでした。インターネットでアパートをたくさん探しましたが、仕事がなく、ざいりゅうカードを持っていないので、契約ができませんでした。

かりほうめんだと、仕事も契約もできないので、日本での生活はとても大変です。私は働くことができ、社会にこうけんすることができます。でもかりほうめんなので、何もできません。私は日本に4年間住んでいます。難民の面接を4年間待っていました。すべてが遅いようです。毎日頭の中で質問しています。

なぜ私たちはここにいるのですか。

私たちの生活は変わるのでしょうか。

不安で、とても怖いです。

でもきぼうがあります。

カマラ アナ：1983年生まれ。リベリアの内戦で両親やきょうだいと生き別れ、消息はわからないまま。2017年1月に難民認定申請し、在留資格のない仮放免の状態が続く。2人の娘（9歳と18歳）と東京で暮らす。アフリカンキッズクラブにも参加している。好きな食べ物はフフとオクラスープ。

仮放免での歯の治療
A KARIHOMEN’s path to dental treatment

アナさんから「顔中がしびれて、頭が割れるように痛い。原因は歯だと思う」という連絡があり、事情を詳しく聞いた。「国にいるときに、兵士の AK47 ライフル銃で顔面を強打され、口に当たり、前歯が3本折れた。その後治療して差し歯が入っているが、痛みが続き、頭痛もひどくて寝られない。毎日、痛み止めを飲んでいる」ということだった。

仮放免では健康保険証はなく、自費診療になり、どこでも診てもらえるわけではない。治療してくれる歯科医を見つけ、どのくらいのお金と期間がかかるか、レントゲンを撮って、詳しくみてもらった。30年のキャリアがあるその歯科医でも、「このようなケースは初めてみる。歯茎の中で３本の歯が真横に割れて、上の部分が少しだけ残っている。中がひどく化膿しているし、難しい治療になる」とのことだった。アナさんは、政府の難民保護費が支給されており、最低限の生活費、住居費が出ている。医療費は認められると支給される。

まず応急処置をして、診断書と治療計画書を書いてもらい提出した。どちらにしても診療の度に全額自分で支払う必要がある。それらの算段をなんとかしながら、数ヵ月治療に通った。幸い、もっともいい形での治療が成功し、新しい差し歯を入れることができた。歯の痛みだけでなく、体の不調も治ったということで安心した。治療費も保護費から支給された。暴力を受けた証拠として難民認定審査に提出するように、歯科医が歯の状態と治療についてまとめてくれた。

体には銃弾を受けた傷やひどいやけどの跡もある。4年半待っていた難民申請の面接が、2021年8月にやっと始まった。一緒に申請している2人の子どもや他の家族のことを含めて細部にわたり聞かれ、5、6回に渡る予定だという。毎回9時から19時ごろまでかかる。日本の学校にも慣れた子どもたちと、在留資格が得られるよう願っている。

津山 直子 :AJF 共同代表

先生は難民〜リンガラ語、始めました

My teacher is a refugee. Enjoying Lingala !

金井 真紀
Kanai Maki

'Pona nini ozo yekola Lingala ？'（なぜあなたはリンガラ語を学ぶのか）。ジャック先生が 'pona nini'（なぜ）構文の練習を始めた。隣の席のノミゾがつっかえながらも「なぜなら、ぼくはコンゴに行きたいからです」とリンガラ語で答え、ジャック先生は「OK」とうなずく。次はわたしの番だ。'Maki, pona nini ozo yekola Lingala ？'（マキ、なぜあなたはリンガラ語を学ぶのですか）。ええと、なんて答えよう。リンガラ語を学ぶ理由…それを話せば長い物語で…。

デモで出会ったコンゴ人

発端は2021年4月。わたしは国会議事堂前でおこなわれた入管法改悪反対のシットインに出かけた。移民・難民の問題にまったく詳しくなかったが、なぜか「行かねばならぬ」と強く思い、一人ではせ参じたのだった。永田町には、思った以上に多くの市民が集まっていた。学生、勤め人、自由業、ご隠居、そして外国出身者。

一角に黒人男性が5、6人固まっていた。コンゴ民主共和国の出身だという。その一人がジャックさんだった。あとからだんだんわかっていくのだが、ジャックさんは決して社交的なタイプではない。来日して9年、自分から積極的に友だちを作ったことはないという。しかもわたしはフランス語がからっきしできず、ジャックさんの日本語はカタコト。それなのに、なぜかその時、ジャックさんはわたしに声をかけてきて、わたしたちは LINE を交換した。すべてはそこから始まった。

入管法改悪反対のシットインやデモは１ヵ月ほど続いた。その間、ジャックさんに会うたびに、わたしは少しずつコンゴの情報を仕入れていった。コンゴ民主共和国はザイールだったのかーって、まずはそこからだ。国土は西ヨーロッパと同じくらい広い、学校で習うのはフランス語で地域共通語はリンガラ語、ベルギー代表のサッカー選手ロメル ルカク（Romelu Menama Lukaku Bolingoli）はコンゴにルーツがある…。

ジャックさんはいつも「コンゴ、アブナイ」と言った。わたしはコンゴに関する本や雑誌記事を読み、独裁者のモブツ（Mobutu Sese Seko）やカビラ父子（Laurent-Desiré Kabila & Joseph Kabila）、豊富な地下資源とそれを狙う各国の思惑、数百万人規模のジェノサイドについて知ることとなった。知れば知るほど、コンゴは「アブナイ」国だった。

ある日、ジャックさんがスマートフォンに入っているお母さんの写真を見せてくれた。「あ、お母さん、きれいだねー」とわたしは明るい口調で言った。海外で知り合った人は、よく家族の写真を見せてくれる。そういうおなじみの行為だと思ったのだ。だけどジャックさんは続けて「オカアサン、シンダヨ」と言って、首を切る仕草をした。え？　わたしはジャックさんの顔を見た。どういう意味？　ジャックさんは日本語で説明できない。わたしは「あなたのお母さんは殺されたんですか？」というフランス語が言えない。いや、もしフランス語ができたとしても、そんな問いを発することができただろうか。

いろんなことがはっきりしたのは5月だった。フランス語の通訳をしている知人の協力を得て、長い時間をかけてジャックさんの聞き取りをした。ジャックさんは独裁政権に抵抗する野党の党員だった。民主化闘争に参加して命を狙われ、着の身着のまま国外に逃げた。2012年のことだ。その後、お父さんは警察に連行されて暴行死し、家に残っていたお母さんと甥（おい）っ子も襲撃されて亡くなった。弟さんはずっと行方不明のまま。

「ぼくは信念を貫いて反政府運動に参加したが、そのせいで家族が犠牲になってしまった」と、ジャックさんは絞り出すように言った。経緯を裏付けるたくさんの証拠があるにもかかわらず、来日して9年間、ジャックさんは難民認定されずにいる。それどころか2021年3月には就労資格を失った。これまで工場で

かない　まき：1974年、千葉県生まれ。テレビ番組の構成作家、酒場のママ見習いなどを経て、2015年より文筆家・イラストレーター。著書に『世界はフムフムで満ちている』『酒場學校の日々』『はたらく動物と』『パリのすてきなおじさん』『サッカーことばランド』『虫ぎらいはなおるかな？』『マル農のひと』『世界のおすもうさん』、『戦争とバスタオル』ほか。

働いて市民税も保険料も年金も払ってきたのに、いまは家賃の支払いにも困っている。「仕事ができないと、毎日ひとりで家にいなければならないのがつらい。両親のことを考えてしまうから」。この人は、なんでこんな目にあわなきゃいけないんだ。わたしはジャックさんが首から下げている十字架をにらみつけた。神様はどこにいる。

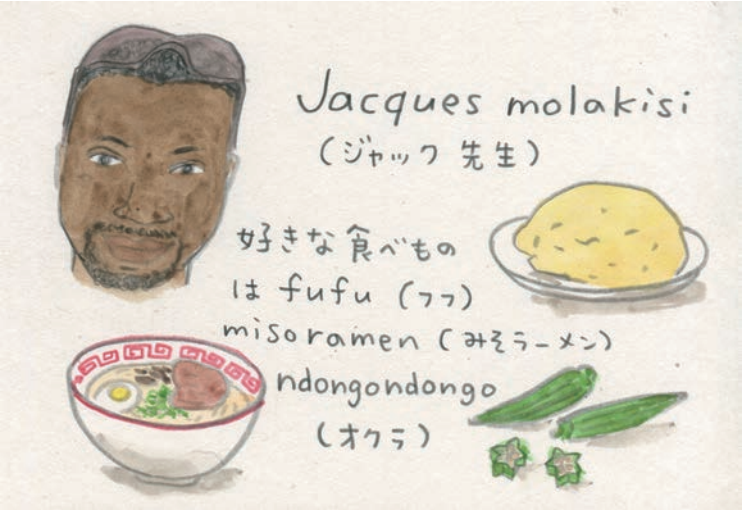
リンガラ語教室は大騒ぎ

5月18日、トンチンカンな入管法改正案は廃案となった。だけど、それで一件落着とはいかない。この国は難民条約に加盟しているのに、難民に対してあまりにも厳しい。一刻も早く、制度を見直してほしい。命がけで逃げてきた人たちが安全に生きられるように、やりたい仕事に就いて一緒にこの社会を作っていけるように、互いの好きなことを伝え合って楽しい近所づきあいができるように。そんな未来を想像すると、胸がいっぱいになる。諦めないぞ。ガミガミ言うぞ。

さて、目下の問題は「ジャックさんとどう付き合っていくか」だった。

わたしがお金持ちだったら経済的な援助が、難民支援の専門家だったら医療や食料のサポートができただろう。でも、そのどちらでもない。わたしがなれるとしたら「支援者」ではなく「友だち」だ。友だちになるのは簡単でむずかしい。一緒に笑うことができたら、それでもう友だちだ。けど、どちらかが負担に感じたら長続きはしない。わたしは直感的に「自分が楽しめることを探そう」と思った。同時に「仲間を巻き込もう」と企んだ。ふだんのわたしは、複数人でつるむことを好まない。でもジャックさんを受け止めるのに、ひとりではあまりに心細い。一対一の関係はおもしろいけど、逃げ場がなくなったらおしまいだ。そのリスクを避けたかった。フフフ、わたしは計算高い。だてに歳をとっていないのである。

最初は、仲間を集めてサッカーボールを蹴ろうと考えた。わたしはこれでもフットサルのヘボ選手だ（もう3年くらいやってないけど…）。でもジャックさんは腰を痛めていて、スポーツはしばらく無理そうだった。次にひらめいたのが「ジャックさんからフランス語を習う」というプラン。わたしはこれまでいくつかの外国語を学び、討ち死にしてきた。語学の才能はフットサルの才能と同じくらい、ない。今さら外国語をマスターすることは無理だろう。まあでも、フランス語の海の波打ち際でチャプチャプと水遊びをするだけでも、いろんな発見があるに違いない。そこまで考えて、さらにひらめいた！　どうせチャプチャプ水遊びをするのなら、フランス語じゃなくてリンガラ語のほうがおもしろいんじゃないか？



絵：金井真紀

驚くべきことに、わたしが「リンガラ語を習おうと思う」と言った途端、「アフリカのことばを勉強してみたい」「いつかコンゴに行きたいと思ってた」などと言って仲間が集まってきた。フランス語に比べてリンガラ語の需要は圧倒的に少ないだろう、という読みは杞憂（きゆう）だった。リンガラ語教室の生徒はいきなり4人に膨れ上がった。

6月1日、第1回の授業がおこなわれた。テキストもない。辞書もない。翻訳アプリもない。ひとつの単語の意味を突き止めるのに大騒ぎだ。「まるで『ターヘルアナトミア』と対峙した前野良沢と杉田玄白だね」「わからない単語をグーグル検索するとさらに謎が深まるなんて、痛快だわ」。わたしたちはリンガラ語の海の広さと深さに興奮してゲラゲラ笑った。ふと見ると、ジャックさんもゲラゲラ笑っている。

あとから知ったのだが、ジャックさんはコンゴにいた頃、学校に行けない貧しい子どもたちに読み書きを教えていたらしい。どおりで教え方がうまい。いや、うまいと言うより、授業中のジャック先生は厳しい！おかげでレッスン開始から1ヵ月半で、わたしたちは早くも 'pona nini'（なぜ）構文の会話練習に直面しているのだ。

'Maki , pona nini ozo yekola Lingala ？'（マキ、なぜあなたはリンガラ語を学ぶのですか）。ジャック先生は疑問文を繰り返し、ジロリと視線を投げてくる。わたしは脳みそに引っかかっている既知の単語をかき集めて、やっとの思いで答えた。'Ponaza muninga ya Jacques'（なぜなら、わたしはジャックの友だちだからです）。

付記①　ジャックさんの聞き取りを記事にしました
https://www.daiwashobo.co.jp/web/html/kanai-maki/10.html
付記②　リンガラ語についての情報をお持ちの方は、ぜひご一報ください。　info@ajf.gr.jp

8年の日本留学生活と将来の目標
8 years of studying in Japan and my goals for the future

ンブップ アイサトゥ（アイシャ）
MBOUP Aissatou

＊本稿は、筆者が日本語で書いたものです。

留学の目的と日本での取り組み

私は母国のセネガルで高校を卒業してから、2013年に留学生として来日し、それ以来日本で学んでいる。留学先として日本を選んだ理由は2つある。

1つ目の理由は、私の冒険への渇望である。母国では、高校卒業後の留学先は基本的にフランスやアメリカである。アジアは距離の問題があり、ほとんど選ばれない。その中で、私は知らないアジアを知りたい気持ちが強く、皆と違う道を選んだ。言語が話せなくて、食べ物も合わなくて、困難なこともきっとあると認識しながら、冒険の道を選んだ。

2つ目の理由は、ものづくりや機械に深く興味を持っていたことである。高校2年生の頃、地理の授業で、日本が世界の中で技術の面で一番であることを学んだ。その時、機械系の勉強をしたかった私にとって、日本は最も向いていると思った。

そのように、私の冒険への渇望と機械に対する興味の2つの理由で、留学先として日本を選び、日本の文部科学省の奨学金を得ることができた。日本で7年半学び、日本文化を体験し、日々日本人や他のアジア人に接してきたことで、日本やアジアについて理解を深めてこられた。また工業高等専門学校で機械を専攻できたことで、機械に対する知識を増やすことができた。

さらに、日本に滞在している間に、新たな目的を見つけた。それは、私の国のことをできるだけ多くの日本人に伝えることである。その背景には、学校や社会で人々のアフリカやセネガルに対する知識が少ない事実に気付いたことである。海外に留学したことによって知識を増やせた私は、日本人が他国について知識を得ることに貢献したいと思ったのだ。その使命を果たすために、小中学校や高校、住んでいる東京都小金井市でのイベントなどで、自分の国について発表してきた。また、毎年ゴールデンウィークには音楽、フードコートや展示を合わせた「セネガル エキスポ」というイベントを開催している。今年はコロナの影響で対面式のイベントはできていないが、オンラインで活動している。

現在の研究と進展

現在、東京農工大学院の博士課程で、太陽集熱のための集光系の設計および性能実証を行っている。

環境省のデータによると、日本の家庭におけるエネルギー消費の3割が給湯に使われている。かつ家庭では、基本的に二酸化炭素を多く発生させるガス給湯器が利用されている。このガスはオゾン層を劣化させ、地球温暖化危機の主な原因となっている。そのため、環境にやさしく、クリーンな再生可能エネルギー源で駆動する給湯器の開発が求められている。再生可能エネルギーのうち、太陽エネルギーは最も可能性と多様性のあるものの1つである。世界エネルギー会議によると、地球に降り注ぐ年間の総日射量は、世界の年間の一次エネルギー消費量の7500倍以上になる。したがって、太陽エネルギーの効率的な使用は、持続可能な開発につながる可能性がある。

ンブップ アイサトゥ（アイシャ）：1996年セネガルのダカール生まれ。16歳でバカロレア（高校卒業試験）に合格。2013年に留学生として来日し、現在は太陽エネルギーが専門で、東京農工大学院博士課程に在籍。またアフリカ布製品のブランド「AiWax」を設立し、製作・販売している。好きな食べ物はお寿司、好きな歌は「ハビネス」by AI。
Instagam: aishaswax　AiWax: https://www.mercari.com/jp/u/934392465

住宅部門の給湯では、平板または真空ガラス管で構成される集熱器も使用されている。しかし，集熱器のほとんどが屋根置き型で、太陽光パネルの導入の拡大により、設置する場所は減少する傾向にある。これらの問題を解決するために、傾斜した放物面鏡と水平平板型集熱器からなる縦置きの太陽光集光集熱器の研究がされた。 しかし、実機での集熱実験では、断熱性の低い集熱部の放熱が大きな課題となり、高温集熱と断熱性能に関して改善が求められた。私の研究では、先行研究で使われている平板型集熱器より断熱性能が優れている真空ガラス管とミラーで構成される集光集熱器を設計した (**図**)。太陽エネルギーを高温の温水として回収することを目指し、効率的な使用のため、受光部の真空ガラス管と集光部のミラーを組み合わせることにより､太陽光を集光する。できるだけ使うスペースを減らすために、集光系の奥行き幅を100mmとして、壁面に設置できるように設計を行った。さらに、集光集熱器のミラーの形状の設計法を数式化し，光学的解析を通じて、その性能を評価し、特に給湯需要の多い冬の間の太陽光の集光量を最大化するのに最適な放物形状およびインボリュート形状を見つける研究をしている。

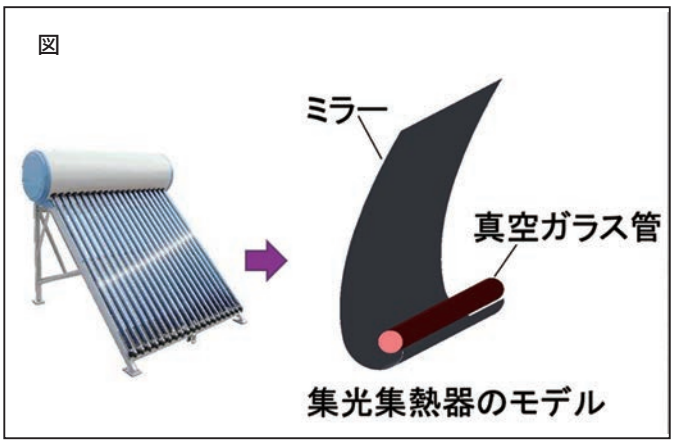
受光部に最適な形状のミラーがついている場合とついていない場合の集光量を比較した結果、6倍の集光量が得られた。つまり、6本の高価な真空ガラス管で構成されている従来型の太陽熱集熱器の集光量は、一本の真空ガラス管とミラーで得られることを明らかにした。特に冬季では集光量が1.5倍になる月もあり、設計が熱需要の多い冬季にとりわけ有効であることを示した。

これらの結果は国際会議および国内学会において発表し、日本太陽エネルギー学会で受賞するなど、高く評価された。また、英文論文にまとめて投稿した [(1)]。まだシミュレーションのみであるため、今後実験によって性能を検証することが課題である。

これからの目標・夢

大学院卒業後は、日本である程度働いてからセネガルに帰って、国民の生活を豊かで、便利にするために働こうと思っている。まずはさらに研究を進め、博士号取得を目指している。

母国では電力や水の供給が不足し、不安定であるため、大学と大学院ではエネルギー工学を専門に学んできた。博士号を取得した後、自分で太陽光発電発熱浄化の事業を起業するのに必要な経験を得るために、日本で5～10年程度エネルギー関係の会社に勤めたいと思う。この太陽光発電発熱浄化の事業では、誰もが簡単にアクセスできるように水を脱塩・蒸留し、電気または熱を生産する機器を製作し，手頃な価格で提供したいと思っている。そして、この事業によって雇用を創出し、母国の高い失業率を低下させたいと思う。



他にも、母国で日本の太陽光発電発熱浄化の会社の支店を作ること、また日本のエネルギー会社との協力会社を設立することを考えている。なぜなら、日本と比較して、母国では土地、税、労働力、生活費などが安く，日本の会社の大きな利益になると思うからである。母国も日本の優れた技術やスキルが得られるので、ウインウインの関係になると思う。また他の理由として、日本企業の存在がほぼない母国と日本の架け橋になりたい気持ちでいっぱいである。プロジェクトが成功したら、母国だけにとどまらず、近隣諸国や世界に広げたいと思う。

そして、会社の運営で済ませるだけでなく、日本と母国の絆をより強くするために、日本の文化や日本語が学べる日本語教育センターの設立も考えている。そのような施設があると、日本への留学および日本側からセネガルへの進出がよりしやすくなるだろう。このように私には多くの目標と夢があり、日本でも母国でも、たくさんの人々と協力して達成していきたいと思っている。

(1) “Design and Performance Evaluation of a Wall Mounted Solar Concentrating Collector”, Thermal Science and Engineering Progress19, June 2020

私の夢／ My dream

ンティバ ケツィア
Ntiba Ketsia

私は栃木県に住むコンゴ民主共和国出身の中学1年生の女子です。小学1年生の時に日本に来ました。私には二つの夢があります。それは医師になり、「国境なき医師団」で働くこと、もう一つが建築士になることです。この二つを聞くと、全然違う職業だと思うかもしれませんが、私の夢としてつながっています。それをお伝えしていきたいと思います。

現実の私と中学生活

まず、私の中学校での生活のことを少し紹介したいと思います。今は中学1年生で、2021年3月に小学校を卒業しました。 小学生の時の友達の多くが違う中学校に行ってしまいましたが、今でも連絡を取り合うほど仲が良いです。でも中学校にも小学校からの親友がいるので楽しい学校生活を送っています。

しかし、小学校生活と中学校生活ってすごく違っていて、びっくりしました。予想していた以上に、校則とかいろいろと多くて、中学は社会に出るための準備の場というのは分かりますが、ありすぎでは！？と友達と話しています。

中学校に入学して驚いたことをランクづけして、トップ3を伝えようと思います。

第3位は、教科書の量です。小学生の時に重いと思っていたものが今では「軽！」と思えるほどすごく重いです。「こんなの中学生が持っていいの？」って思います。私は自転車通学なので歩きの人よりは楽な思いをしていますが、自転車から降りて荷物を持った時の重さはもう言い表せないくらい重いです！

第2位は、先輩と後輩の上下関係です。小学校の時も先輩という存在はいましたが、そんなに上下関係は厳しくはなく、みんな仲が良かったです。中学校に入ってから上下関係が徹底され、先輩がちょっと怖い存在になりました。本当は優しいのはわかるのですが、1年生からすると先輩って結構怖いし、あいさつとか心がけていますが、緊張して声が小さくなったりしてしまいます。でも、あいさつはとても大事なことなので、これからも心がけていきたいです。

いよいよ第1位！　それは教科の先生が自分に合うか合わないかによって、理解度や点数が結構変わることです。それで自主勉強の大切さがわかりました。私の小学校では、小学5年生から自主勉強ノートをつくらなければいけないというルールがありました。最初はめんどうくさいなーって思っていたのですが、中学校に入ってから改めて大事なのがわりました。小学校で習慣づけていた事なので苦労せずに、どうしたら上手くまとめられるのだろうか、見返した時にわかりやすくできるだろうか、と考えながら、自主勉強ノートをまとめています。

やっぱり学校の勉強だけでは足りないということですね。自分で一生懸命勉強するからこそ、日々の積み重ねがテストの時も生きるということがわかります。これからもこれを心がけるようにしたいです！

では、本題の私の将来の夢について、話していきたいと思います。

医師になって、国境なき医師団に入る

私は、小さい頃から医師になりたいと思っていました。それはコンゴ民主共和国での生活が関係しているからです。私は日本に来ることができましたが、コンゴ民主共和国での生活はとても辛く、内戦が続く最中でした。人々は政治家や偉い人の欲望のままに動かされていく、例えるなら、そうチェスの駒のように…。しかし、人々はそれに苦しまされるだけで抵抗できないし、抵抗したら捕えられたりしてしまいます。

医療は、本当は誰もが受けることができないといけないですが、自分でお金を払って病院に行くか、その

ンティバ ケツィア：2008年生まれ、現在中学1年生。6歳で来日し、栃木県で両親と暮らす。部活はソフトテニス部。好きな食べ物は麺類（特に焼きそば、うどん）。趣味は「歌い手」の動画配信を見て、「推し」を応援すること。好きなグループは、AlbaNox（アルバノックス）、ちょこらびぃ、騎士A。

まま自力で治すかの二つに分かれます。残念ですが、コンゴでは就職率が低く、保険もないので、多くの人々は自力で治すことを選ばざるをえません。そんな人々が世界にはたくさんいます。そのような人たちのために働きたいと思い、そのためにできる職業と考えた時に医師になりたい！そして辛い思いをしている人を救いたい！という思いで、医師になる強い意志を持ちました。

医師はたくさんの専門分野があります。どの専門医になるかは今も調べていますが、医療が進んでいないところでは手術がとても大変なことを知っている私は、外科医になりたいと思っています。小学6年生の時に自分のなりたい職業を決めたり、見つけたり調べたりする授業がありました。その時、外科医のことを調べていましたが、その前に道徳の授業の時にユニセフの勉強をしていました。そしてユニセフについてもっと調べてみようと思い、調べてみたところとてもひかれました。ですが、ユニセフは子どもを支援しています。大人の治療はできません。その後他の団体も調べるようになり、国境なき医師団のことを見つけたのです。私はそれを見て私にピッタリ過ぎないか！？と言うぐらいに驚いて、将来そこで働きたいと決めました。

建築士になる

そして、二つ目の夢は、建築士になることです。私はもともと医師一途でしたが、家の設計された図がとても好きで自分も作ってみたいなーと思っていました。その二つの夢をどちらもかなえる方法はないのかと考えていました。その時、コンゴでは多くの人が住む家がない、その人たちのためにいい家を作ることができればと気づいたのです。それで建築士について調べるようになりました。

私は、まず医師になって、お金を貯めて、そのお金で家づくりに関わり、人々が建設の仕事を得て、家も得られるようにしたいと思っています。健康と家はみんなが必要なものです。たくさんの人が住むことができる家を作りたいです。

今の私にできること

それらの夢をかなえるために、今の私にできることは勉強をがんばる、ということです。国境なき医師団に入るためには、医師になって経験を積まなければなりません。医師になるためには医師免許が必要で、医師免許を取るためには医学部に行き、国家試験に合格しなければいけない。医学部は偏差値が高いため、たくさん勉強しなければ行けないのです。

私は、今できることを精一杯やっていきたいと思います。そのために自主勉強をもっとしたり、ノートの色分け、英検などを勉強して、まずは希望の高校に入れるようにしたいです。

私にできることの二つ目は、礼儀です。人は礼から始まって礼で終わると言います。私はあいさつとかがちゃんとできるようにして、もっと礼儀を学びたいです。

そして、三つ目は部活です。これは将来の夢に関係していないですが、私自身ががんばりたいことです。私は部活でソフトテニスをしています。もっとがんばって、県大会とかに出場できるようになるのが、今の部活での目標です。そのために基礎を身につけていきたいと思います。

私は今はこの三つをがんばり、その先に、将来の夢をかなえられるようになりたいです！　そしてたくさんの難民の人を救って、難民がいなくなる世界への協力をしていきたいと思います。

コンゴ民主共和国キンシャサのAcademy of Fine Artsの壁に描かれているCOVID-19予防・啓発の絵。
写真：REUTERS/Benoit Nyemba　2020年6月
出典：https://www.reuters.com/news/picture/writing-on-the-wall-congolese-murals-cou-idUSKBN2411I7

南アフリカ：ローズの呪縛
South Africa: Legacy of Cecil John Rhodes

福島 康真
Fukushima Koshin

ケープタウンでの山火事の発生

2021年4月18日（日曜日）に発生したケープタウンの山火事はテーブルマウンテンの斜面に広がり、ケープタウン大学の建物の一部が焼けたほか、政府所有の閣僚の住宅などが焼失したという。とりわけ歴史的な文書や資料などを所蔵しているケープタウン大学のアフリカ研究所（African Studies）の図書館が焼けてしまったのは、アフリカ研究における大きな損失と言えるだろう。

誤解を恐れずに言えば、ケープタウンでの山火事はそんなに珍しいものではない。ケープタウン周辺の夏（12月から3月）は空一面に青空が広がり、気温が上がり、南東の強い風が吹き荒れ、しかも空気が乾燥している。だから毎年夏になると、必ず山火事が発生する。近年は人間の失火が原因のものが多いが、歴史的に自然発火による山火事が発生してきた。この火事によって、ケープ周辺の珍しい植物が種を保存することが可能になり、その結果、この植物分布域は世界自然遺産に指定されているほどだ。だからケープタウンの人々は長い間、夏に発生する山火事と共存してきた。

ケープタウンでは山火事が多いために、山の斜面のある一定の高度以上に建物を建てることが禁止されている。その山の斜面の高度ギリギリの場所に住んでいるのは中産階級、富裕層が多い。そしてここは山火事の度に炎が迫ってくる場所にもなっている。これまでも少なくない家屋や施設が火事によって焼けている。

ローズ・メモリアルとアフリカ研究所

今回の火事が発生したのはローズ・メモリアルと呼ばれるテーブルマウンテン東側斜面の中腹にある場所周辺で、人による失火によって、すでに秋に入っているにもかかわらず久しぶりに吹き始めた夏特有の南東の強風にあおられて、テーブルマウンテンの東側からケープタウン市街地のある北側に広がっていった。

このローズ・メモリアルは、セシル ジョン ローズ（Cecil John Rhodes）の胸像が設置されている場所だ。ローズは19世紀中期にイギリスで生まれた後、南アフリカに移り住み、19世紀後半に南アフリカ中央部のキンバリーで「発見」されたダイヤモンドでロスチャイルドの支援を受けて財を成した。 ダイヤモンド会社のデビアスを作った人物である。その後、銅鉱山開発などを経てケープ植民地で植民地政府の首相となり、ケープ周辺で農場経営を行い、果物類のヨーロッパへの輸出でも財を成した。彼の農場はケープ周辺に広範囲に及び、その一部はテーブルマウンテンの斜面にも広がっていた。

ローズの「夢」は、ケープタウンからカイロまでアフリカ大陸を縦断する鉄道を建設し、その後背地をイギリスのビクトリア女王（Queen Victoria）に捧げるというものだった。彼は晩年、テーブルマウンテンの東側斜面の中腹に広がる彼自身の農園で、毎日のように遠く眺めながら想いにふけっていたという。その場所が今回の火事が発生したローズ・メモリアルだ。現在、テーブルマウンテンの斜面に住む人々は、まるでローズのように、山の中腹から遠くに広がる海や大地を見下ろしながら生活している。

そのすぐ麓にはケープタウン大学のキャンパスが広がっている。ケープタウン大学は南アフリカの大学でトップに位置すると言われており、アフリカを代表する大学でもある。中でもアフリカ研究所は世界のアフリカ研究の重要な場所のひとつで、日本も含め世界中からアフリカ研究者がやってくる。その図書館には歴史的な資料だけでなく、とりわけ20世紀以降の近代の歴史的社会的資料が多く所蔵されている。この地の先住民族のコイサンの資料、ヨーロッパ人たちがやってきて以降の歴史的な資料などはもちろんのこと、アパルトヘイト時代に広がった反アパルトヘイト運動に関連するさまざまな資料があり、新聞や雑誌などだけでなく、映像資料、音源資料、手書きのビラやパンフレットなどを網羅している。そのアフリカ研究所の図

ふくしま こうしん：日本でさまざまな社会運動に参加し、1980年代後期にアパルトヘイト反対運動に参加。1997年から現在まで南アフリカ・ケープタウンに在住。現地 NGO に参加し IT プロジェクトや債務帳消し運動などの活動に参加した後、フリーランスになり、観光ガイドの他、通訳・翻訳に従事。『南アフリカを知るための60章』『ダークツーリズム』などに寄稿。

書館が今回の火事の被害にあってしまった。今回の火事はローズ・メモリアルから始まり、ケープタウン大学の歴史的な建物を焼き、周辺にある高級住宅地の一部を焼き、街中に灰を降らせながらケープタウンの街に迫っていった。

ケープタウン大学の図書館は火事が収まった直後からその資料の復旧が呼びかけられ、多くの人々が参加した。調査する中で多くの資料が焼失せずに残っていることがわかり、多くの人々が、その復旧のために駆けつけた。資料を運び出すために必要な箱がスーパーマーケット・チェーンから大量に寄付され、1万2000以上の箱に詰められた資料が次々とボランティアの手によって10ヵ所の安全な場所に移動された。消火の際の放水によって水浸しになった貴重な本や資料は、細心の注意をもって乾燥させることになった。また図書館を利用したことのある研究者に、図書館でコピーした資料や写真の寄付が呼びかけられた。2021年5月末に復旧プロジェクトの第一段階がようやく終わったところで、作業はまだまだ続く。

セシル ジョン ローズ像の撤去

この大学のキャンパスの中心部、今回消失した図書館のすぐそばに、かつてローズの像が設置されていた。というのも大学のキャンパスは、かつてローズが所有していた農場の一部だったからだ。2014年、学生たちはこのローズ像を撤去する運動を開始した。 ケープ植民地を作り上げたローズの像は、1994年にアパルトヘイトを廃絶して新しい民主的な政府を作り上げた南アフリカを代表する大学のキャンパスにはふさわしくない、というのがその理由だった。

学生たち教員たち職員たちによる運動の結果、2015年に大学はローズ像を撤去することを決定し、長い間ローズが座り続けていた台座からローズの姿が消えた。そしてほぼ同じ時期にローズ・メモリアルにあるローズの胸像には赤いペンキがかけられ、彼の鼻は何者かによって削り取られた。そのローズ像は長い間そのままの状態に置かれていたが、新型コロナウイルスによる感染拡大によるロックダウンの期間中の2020年7月、何者かによってその首から上がすっぽりと切断された。数ヵ月後、切り取られた首は鼻が削られた状態のままで近くのブッシュの中で発見された。そして金属でできたローズ像がローズ・メモリアル友の会によって復元され、鼻を取り戻したローズは再び遠くを眺め始めている。

ケープタウン大学のローズ像撤去をきっかけに、世界中でローズ像の撤去を求める運動が広がっていった。ローズの出身地イギリスのオックスフォード大学でも校内にあるローズ像の撤去の声が広がった。とりわけ2020年に世界中に広がったブラック・ライブス・マター（BLM）運動をきっかけに撤去の声は拡大し、大学はローズ像を撤去することを決めたが、現在のところまだ実現していないようだ。ローズがデビアス社を作ったキンバリーに20世紀初頭に作られたローズ像も2020年6月に撤去を求める声が上がったが、ローズ像を保存しようとする人々との間で衝突が起きており、現在もまだ立ったままだ。

ローズ像が撤去された後の台座は板でカバーされ、かつてのローズ像の影が黒くなぞられている。
2015年12月、ケープダウン大学構内、撮影：福島康真

アパルトヘイトの基礎を作り上げたローズは、現在も南部アフリカでは「健在」だ。デビアス社を傘下に置く鉱山会社のアングロ・アメリカン社は現在、ロンドンに本社を置きつつ、南部アフリカで産出されるプラチナ、銅、ニッケルをはじめ多くのレアメタルを今なお支配している。南アフリカ南部にあるグラハムスタウンにある大学の名前は現在もローズ大学。ケープタウンにはローズ・メモリアルの他にも、市街中心部のカンパニーズ・ガーデンにローズ像が今も立っている。左手を高く掲げカイロのある北を向いた像の台座には「陛下の後背地があちらに（YOUR HINTERLAND IS THERE）」と彫り込まれている。そして、その像のすぐ横には南アフリカの国会がある。

白人至上主義のローズが作り上げた植民地支配のためのさまざまな制度が多くの人々の血と汗によって廃絶されて、今年で27年。新しく制定された憲法はすべての人々に平等な権利を保障したが、コロナ・パンデミックで今もロックダウンが続く中、いくつかの権利は制限された状態にある。現在のロックダウンは規制が一番緩やかとはいえ、多くの人々は不満を持ちつつも概ね規制に従いながら日々生き延びている。けれどもそれと同時に、ふとした時にかつての名残が見え隠れする。

5月現在、ケープタウンは火事などなかったかのように以前の生活に戻っている。しかし被害は、山肌の黒く焦げた火事の跡とともに今も消えていない。ローズ・メモリアル火災と名付けられた今回の火事は、自ら作り上げたものが次々と取り除かれているのを憂慮するローズの足掻（か）きなのか。ケープタウンは今なおローズの呪縛から逃れられていないのかもしれない。

ACT アクセラレーターがデルタ株拡大に対し緊急声明

不足額166億ドルのうち77億ドルの緊急拠出を求める

ACT-A requested $7.7 billion for emergency response to Delta variant

※ 本稿はAJFのウェブサイト「国際保健とCOVID-19」に掲載されたブログ記事から選んで、まとめたものです。このブログでは、毎月2本以上の新型コロナウイルスなどに関する新しい記事を掲載しています。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関するワクチン、診断、治療、保健システムの研究開発から供給までを一手に担う多国間協力の枠組み、ACT アクセラレーター（COVID-19 関連製品アクセス促進枠組み）が 2021年8月16日、変異株の一つである「デルタ株」の世界的な拡大に際して、77億ドルの緊急拠出を求める緊急アピールを発出した。

3月以降のインドでの感染拡大の原因となったデルタ株は、これまでの株や他の変異株よりも感染力が強いことなどから、今まで他地域に比べて被害が小さかった地域を含め世界的に拡大している。一方、低所得国、中所得国は、規模の大きな上位中所得国を含め、ワクチン、予防、診断、治療のいずれにおいてもニーズと供給のギャップが深刻な状況となっている。

ACT アクセラレーターは、これらの必要物資の開発と供給に多国間で責任を負っているが、昨年4月の設立以降一貫して、援助国からの資金拠出を確保できず、慢性的な資金不足が続き、現在も 2021年中の資金が166億ドル不足している。今回の緊急アピールは、新たな資金の要求ではなく、この不足分のうち77億ドルを緊急に拠出することを援助国側に求めるものである。

77億ドルを何に使うのか

- 検査（24億ドル）：低所得国・中所得国の検査を現在の10倍に拡大。どの国でも最低限必要な検査を可能に。
- 酸素（12億ドル）：中等症～重症の患者を治療するために緊急に必要な酸素を確保する。
- 個人防護具（PPE）（17億ドル）：200万人の保健ワーカーに基本的な個人防護具を提供する。
- 研究開発（10億ドル）：医薬品やワクチン等の製品について、デルタ株に適切な効果を持たせるようにする。
- 各国への技術協力等（14億ドル）：医薬品やワクチン等の製品展開を、国レベルで実施するための協力支援。

ACT アクセラレーターの成果

この声明に先立って ACT アクセラレーターは、2021年第2四半期（4～6月）における活動報告書を発表。ワクチン、検査、治療いずれも先進国と低所得国の間には大きなギャップが存在するが、これについて、予算額に比して乏しい資金の中でどのような取り組みを行ったか報告している。主要な成果は以下の通り。

- 診断部門（パンデミック発生以降）：8400万回分以上の迅速診断キットの配布、迅速診断キットの価格低下の実現（5ドル→ 2.5ドル）、診断関連製品の製造技術の移転と域内製造の促進、70ヵ国以上でのラボのインフラ支援等。
- 治療部門：デキサメタゾン300万処方など治療薬関係に3700万ドル、3.16億ドル分を医療用酸素大手と契約し、低所得国・中所得国に供給。2021年7月以降は、9700万ドル分の酸素（270万アイテム）を供給。第2四半期に、グローバルファンドの COVID-19 対応メカニズムを通じ、2.19億ドルを費やし各国の酸素供給に活用。
- ワクチン部門：COVAX 事前買取枠組み（AMC）対象国84ヵ国への1億3750万回分を含め、138ヵ国に1億8620万回分のワクチンを供給（8月5日まで）。研究開発については、11のワクチン候補を同定して支援。
- 保健システム部門：4月末までに5億ドルを費やし各国の保健従事者の個人防護具（PPE）を供給、価格低下も実現。140ヵ国でワクチン供給の調査を実施。

現状の在り方のレビューも実施

COVID-19 の収束が見えない中、ACT アクセラレーターは、2021年第3四半期において現状の達成状況と役割、課題などについてレビューを行い、2022年第1四半期以降に向けて現在の在り方を変えて行くことをめざしている。このレビューは、グローバルなコンサルティング企業の一つダルバーグ・アドバイザーズ社が ACT アクセラレーターの各機関および運営評議会の支援を得て行う予定である。このプロセスについて、ACT アクセラレーターに関するアドボカシーを行う NGO ネットワーク「パンデミック行動ネットワーク」（PAN）や市民社会団体が提言書を提出するなど、ACT アクセラレーターをめぐる動きも活発になってきている。

（2021年8月27日）

出典：https://ajf.gr.jp/covid19_27aug21/

稲場 雅紀：AJF 事務局員

COVAX、中国ワクチン1億本を9月末までに途上国に供給

COVAX will supply 100 million doses of Chinese vaccines to developing countries by the end of September

中国では複数の製薬企業がCOVID-19のワクチンを開発・製造しているが、このうち、多くの途上国で使われているのが中国国家医薬集団（シノファーム）・北京生物製剤研究所のワクチンと、中国科興生物製品（シノバック）のワクチンである。前者は2021年5月7日、後者は6月1日、世界保健機関（WHO）の緊急使用リストに掲載された。

中所得国を中心に 2国間で流通してきた中国ワクチン

COVID-19に関する多国間協力の枠組みであるACTアクセラレーターでワクチンの開発と供給を担当するCOVAXは、WHOが緊急使用リストに掲載したワクチンを使用することになっている。COVAXは感染爆発に直面したインドのワクチン一時禁輸措置により、あてにしていたインド血清研究所（SII）製のアストラゼネカ・ワクチンの供給が止まったためにワクチン供給の機能を低下させていたが、2つの中国ワクチンがWHO緊急使用リストに掲載されたことから、まず、1億本を8月から9月末までにアジア・アフリカに供給することを決定した。供給はすでに始まっており、中国のコンサルティング企業Bridgeが公開している「中国COVID-19ワクチン・トラッカー」ウェブサイトによると、8月30日までにバングラデシュ、パキスタンに出荷されている。今後もアルジェリア、ウガンダ、キルギスなどに供給されることとなっている。

各国への技術移転と各国での精算も促進

同ウェブサイトによると、上記2社のワクチンを中心に、中国ワクチンはこれまで合計11.5億本の販売契約と5400万本の寄付契約が決定し、現在までに供給されたのは6.93億本であるという。販売先は中南米、中東・北アフリカ、東南アジアなどの中所得国であり、サハラ以南アフリカでは41ヵ国に供給されてはいるものの、全体に対する割合は他地域と比較してかなり低くなっている。一方、中国はワクチンを必要とする各国に技術移転をして各国の製薬企業で製造し、各国で供給するプログラムも行っており、エジプト、モロッコ、アルジェリア、アラブ首長国連邦、セルビアなどのワクチン・製薬企業が中国からの技術移転を受けてワクチンを製造し、各国で使用している。

COVAXはまた、英グラクソ・スミスクラインや米ダイナヴァックス社と連携してワクチンの開発を行っている中国の三叶草生物製薬（クローバー・バイオファーマシューティカル社）との間で、同社のワクチンがWHOの緊急使用リストに掲載された段階で4億1400万本の供給を受けることになっている。このワクチンは開発資金の一部について、COVAXの開発分野を統括しているCEPI（感染症流行対策イノベーション連合）の拠出を受けている。

インド企業が世界発の DNAワクチン開発に成功

COVID-19ワクチンについては、中国やロシア、インド、キューバの企業や研究機関が、欧米メガファーマとは別に独自にワクチンを開発しているが、WHOの緊急使用リストに掲載され、多国間協力の枠組みで活用されるようになったのは、中国のワクチンが初めてである。ロシアのガマレヤ疫学・微生物学研究所が開発したウイルスベクターワクチン「スプートニクV」は提出資料が少なく、まだ緊急使用リスト掲載に至っていない。また、インドのバラット・バイオテック社が開発した不活化ワクチン「コバクシン」も、審査を待っている状況である。キューバが開発したソブラナ2・ソブラナ3・アブダラの3種類のワクチンも審査継続中となっている。なお、インドのワクチンメーカー、ザイダス・カディラ社（Zydus Cadila、カディラ・ヘルスケア）は、世界初のDNAワクチンを開発し、インドの医薬品許認可当局はこれを承認した。COVID-19ワクチン開発に関する中国、インドの台頭は、その供給のボリュームの大きさや、多国間協力枠組みへの参加なども含めて、いわゆる「ワクチン外交」の範疇（はんちゅう）を越えている。COVID-19を踏まえたパンデミック対策・対応や国際保健安全保障枠組みの構築に、こうした国々がどのように参画していくかは、これらの枠組みが真にグローバルなものとして成功するかどうかの試金石の一つと言える。（2021年9月1日）

出典：https://ajf.gr.jp/covid19_31aug21/

稲場 雅紀：AJF事務局員

書評 Book Review

下地 ローレンス 吉孝 著

「ハーフ」ってなんだろう？ あなたと考えたいイメージと現実

小林 俊一郎
Kobayashi Shunichiro

平凡社、縦組み、224ページ、1,600 円＋税
初版 2021年4月21日　ISBN: 978-4-582-83866-4

日本人／外国人の二分法は、日本の社会制度のはたらきを考えるにあたり避けられない構築物（作りもの）である。混血やハーフをはじめ数多くの名でよばれ、二分法の両側を往来するような人々の体験が本書の著者の研究対象である。加えて著者は、そんな人々の思考や会話を発信するメディア実践にも携わる。そして著者の活動の幅のひろがりを、本書の出版には感じる。本書は学術書ではなく、専門家が中学生に向けて社会問題を平易な文章で解説するシリーズの一冊である。

本書の肝は、上述の人々が出身地や外見といった自らの特徴をめぐって体験する日々の問題を、各々の個人的問題ではなく社会的問題として思考しよう、というメッセージである。第1章では当事者を何と呼べばよいのかを考え、どんな体験をしているのかを知ってみる。すると、ひとまとめにできないような体験の複雑さが浮き彫りになる。第2章では交差性という概念を用いて、そんな複雑性を単純化せずにそのまま理解しようと試みる。第3章では複雑とは真逆の当事者像の形成過程をたどる。これで日本人の常識や外国人の偏見の出どころがわかるようになる。第4章ではそんな常識や偏見を「学び捨て」ようと呼びかける。

著者がどれだけ参与観察に熱心なのかも本書の全体にわたってかいま見える。第5章ではメンタルヘルスの問題の理解を目的に発信の実践をしてきた人のインタビューを掲載している。第5章までの各章の間では著者が学ぶところの対象者一般のインタビューで、文章全体でも過去のインタビューを豊富に紹介してくれる。本書の最後では著者が数々の会話を経て感じとった問題意識を10個にまとめた宣言を提示する。

社会においてある人が差別的な体験をするのは、社会的・身体的特徴がマジョリティ人口と異なるからではなく、社会構造によって諸特徴が差別的な意味付けを被るからだ、というのが本書の核となる認識である。2020年の米国での叛乱以降に日本の若者の間で高まりつつあるのもこの認識である。本書が時流に沿っているのに加えて、著者の他の著作やメディア実践は構造視点の芽生えの準備となったと言えるだろう。

学術的な視点にこだわり、むずかしい概念を導入しながらも、かんたんな表現で伝え直すというのも研究者の挑戦点だ。大人でも社会学・人種研究といった学術編成には詳しくないという方であればためになる学びがあるだろう。

ところで、被差別経験として具体的に挙げられているのは、人種を理由にしたハラスメントやいじめである。ここで残念ながら著者は、ハラスメントやいじめも構造的由来を持つ問題である点を明瞭に指摘していない。本書の「はじめに」の図（p. 7）を見ると、社会は「学校」「職場」「家庭」などさまざまな場から成る。であれば、おのおの場で発生する問題はそれぞれの場の構造的特徴による。職場のハラスメントなら上司と部下という権力関係が、いじめなら被害者と加害者が毎日顔をあわせる状況を持続させるという学校制度の根本がある。それがまた、差別的言動の温床にもなる。この示唆にもかかわらず、人種的側面だけが強調されるために、結果的に構造視点が減殺されている。

人種あるいは日本人／外国人という構築は、社会の見え方をひずめてしまう。そのような構築の働きが制度的欠陥を生み、ハーフに対する日常的生きづらさにつながりもするのは言うまでもない。構造視点はそのような問題を抑制できる。だが批判的人種研究は、あえて人種を焦点化することでこの問題を再度抱えることにもなる。そのようなジレンマあるいは緊張感も、本書について議論されるべき点である。

こばやし しゅんいちろう： 一橋大学言語社会研究科博士後期課程在籍。主な研究領域はアメリカ文学。これまでに、自由と民主主義のための学生緊急行動（SEALDs）、エキタス（AEQUITAS）などの社会運動団体に参加。エキタス、他『エキタス　生活苦しいヤツ声あげろ』（かもがわ出版、2017年）などに寄稿。現在、アフリカンユースミートアップ運営委員。

報告 AJF2021年度会員総会・会員交流会

Report of the general meeting of AJF in 2021 and member's exchange meeting

2021年6月20日、AJF2021年度会員総会を開催し、34名が参加しました。オンラインでの会員総会の開催は昨年に続き2回目になり、運営側も会員の皆さんもオンラインに慣れたためか、事務局のサポートはほとんど必要ありませんでした。審議事項については、第一号議案から四号議案まで賛成多数（第一号・第二号議案は承認＝143、保留＝0, 反対＝0。第三号・第四号議案は承認＝142、保留＝１、反対＝0）で承認されました。当日、ご参加いただいた皆さん、事前に委任状や書面表決をお送りいただいた皆さんに改めてお礼を申し上げます

総会に続き、理事の星野智子さんのファシリテーションのもと、2021年度最初の会員交流会を行いました。全員の自己紹介のあと、理事会で作成した、会員が新しい事業を提案したい場合の理事会での検討の流れを紹介しました。これまでは「適宜」行っていたものを確認し、整理したものです（図を参照）。

続いて4つのグループに分かれて、COVID-19、活動、仲間、将来展望というテーマで意見交換を行いました。以下、ほんの一部ですが意見交換の中で出てきた意見をご紹介します。

・　日本にいるアフリカの人たちが直接参加できる活動をしてほしい。

・　アフリカの現地の人々の声を伝えたり、AJF の活動紹介をしたりするために、あまり負担にならない形で動画をもっと活用してみてはどうだろうか。

・　アフリカンキッズクラブのキッズたちから、日本の学校教育ではなかなか教えてくれないさまざまなアフリカのことについてもっと学ぶ機会が欲しい、という声が出ている。

・　オンラインの時代、現地の声やアフリカにいる日本の人などと直接つないで話を聞ける機会がほしい。

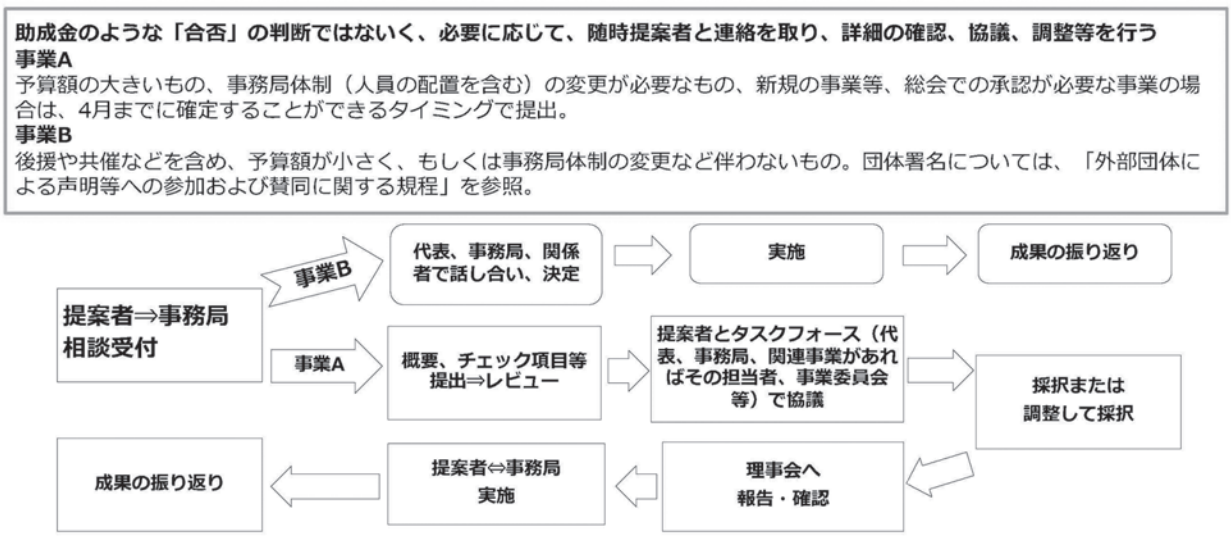
・　会員の持っているいろいろなアフリカの写真をどこかで紹介できるといいのではないか。

・　オンラインの全国のどこからでもつなぐことができる利点を生かし、講師の幅を広げ、セミナーを有料で開催してもいいのではないか。

去年から一気に広まったオンラインツールを使い、アフリカの状況や人々の声をもっと具体的に知りたい、また参加者も講師もどこからでも参加できることを生かしたセミナーや講座を開催してほしい、という声が多く聞かれました。少しずつでも新しいことに挑戦していければと思います。今後もご協力をぜひよろしくお願いします。

廣内 かおり：AJF 事務局長

図：新事業や取り組み提案の際の理事会での検討の流れ



アフリカ日本協議会（AJF）事務局から読者の皆さんへ
【ひとつの結び目として】

■　ミャンマーのクーデターから半年が過ぎました。「治安部隊」の犠牲になった人は増え続けています。民主化のプロセスにあった時期に決定した日本政府による支援や公的資金による投資はいったんすべて停止し、見直すことを呼び掛ける NGO、5団体の声明に AJF も賛同し、公開書簡に署名をしました。

■　AJF が事務局を務める「新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！連絡会」は、昨年12月から今年8月までに5回のウェビナーを開催。短い告知期間になることが多かったにもかかわらず、毎回100名を超える方々に参加していただき、関心の高さを感じています。南アフリカの市民社会からも2回発言してもらいました。公正な医療へのアクセスと知的財産権の停止を求める国際的な市民活動においてアフリカの市民社会の人々が活躍しています。

■　立命館大学・生存学研究所と AJF が連携し、生存学研究所作成のウェブサイト「アフリカ」情報ページを玉井隆共同代表とインターンの皆さんで更新中です。フランス語の 'Jeune Afrique' からニュースを選んで日本語で情報提供をするボランティアとして、会員の村田はるせさんが加わってくれました。

■　アフリカンキッズクラブ関西が発足します。

■　毎週月曜に発行しているメールマガジン 'AFRICA ON LINE' の編集メンバーを募集しています。他のメンバーと共に1ヵ月に1回程度、アフリカ関連のイベントを更新します。関心のある方は事務局まで連絡してください。

■　AJF のウェブサイトから読めるブログ「国際保健と COVID-19」では、国際保健部門ディレクターの稲場雅紀さんが毎月、新型コロナをとりまくグローバルな状況と政治的課題を分析・解説しています。ウェブサイトにアクセスするか、あるいは毎月第一水曜発行のメールマガジン『グローバル・エイズ・アップデート・プラス』を購読してください。AJF ウェブサイトのトップページのバナーからも登録可能です。

廣内 かおり：AJF 事務局長

活動日誌（2021年2月1日～7月31日）※　会議、セミナーなどはオンラインで開催

2月12日	FAO の資料を読む学習会（3/20、4/17、6/13 にも開催）
2月17日	新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！連絡会、外務省に要請書提出
2月23日	ウェビナー「新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！―途上国・新興国が求める医薬品特許の無効化」（主催：新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！連絡会。5/8、5/28 も同じ）
2月28日	アフリカンキッズクラブ　Akwaaba Kids　アフロビーツダンスクラス（3/30、5/30 にも開催）
3月6日	セミナー「西サハラは誰のもの？ トランプ外交の負の遺産を越えて」（西サハラ友の会と共催）
3月18日	GII/IDI 懇談会
4月24日	アフリカンユースミートアップ「新しい一年のことを話そう！」
5月8日	緊急ウェビナー「米国・バイデン政権がコロナ・ワクチンの特許免除を決断！すべての人への公正な医療アクセスを求めてきた国際市民社会の力―日本政府も今こそ、特許免除の判断を！」
5月23日	アフリカンキッズクラブ・オンライン・ママ会 with アフリカンユースミートアップ
5月28日	ウェビナー「米国ワクチン“知財免除”で世界はどう動く!?　ＥＵ各国の反応と市民社会の運動の最新情勢確認」
5月-7月	連続講座「アフリカの経験に学ぶパンデミック対策―『健康』を人々の手に取り戻すために」（アジア太平洋資料センターと共催） 第1回【エイズ】南アフリカの経験に学ぶ―歴史を切り開いた当事者たちの行動（5/25） 第2回【マラリア】アフリカの人々は国際保健のトレンドをどう乗りこなしてきたか（6/7） 第3回【エボラ出血熱】複雑な国際情勢と社会環境の中で（6/25） 第4回【新型コロナとグローバル・ヘルス】国際保健政策を人々の手に取り戻すために（7/5）
7月10日	セミナー「西サハラにおける天然資源略奪と占領下の経済の実態ーリン鉱石、たこ、まぐろ、風力・太陽光発電、観光」（西サハラ友の会と共催）

※　メールマガジン 'Africa on Line' を毎週月曜日、『グローバル・エイズ・アップデート・プラス』を毎月第一水曜日に発行

※　年次会員総会（6/20）、理事会（2/25、5/15）、執行体制検討臨時委員会（2/8）、拡大事業委員会（2/1）、事業委員会（2/1、3/18、4/25、5/10、6/9、7/27）、会員財政委員会（2/10、3/1、3/19、4/9、5/7、6/11、7/13）、広報委員会（2/16、4/23、6/2）

アフリカ NOW no.117　2021年9月30日発行
発行：特定非営利活動法人　アフリカ日本協議会
発行責任者：玉井 隆、津山 直子
編集責任者：茂住 衛
印刷：㈲ 山猫印刷所
定価：500円(税込)

特定非営利活動法人　アフリカ日本協議会
〒110-0015　東京都台東区東上野1-20-6　丸幸ビル3階
TEL　03-3834-6902　**FAX**　03-3834-6903
URL　https://ajf.gr.jp　**E-mail**　info@ajf.gr.jp
【郵便振替：払込取扱票】　00120-3-573276
【銀行口座】　三菱 UFJ 銀行上野支店　（普）5305887
※口座名はいずれも「特定非営利活動法人アフリカ日本協議会」